

重力波とは質量を持つ物体の周囲の時空が歪み、その運動が波動として伝わっていく現象である。とは言え、"地球 1000 億個分の距離を髪の毛一本の太さにも満たない幅だけ伸縮させる変化"を観測するのは容易ではない。アインシュタインが1世紀前に打ち立てた一般相対性理論はさまざまな現象を予言したが、その中で唯一、直接検証されていなかった"宿題"であった重力波を初めて検出した米国などの国際研究チーム「L I G O（ライゴ）」を率いた3氏、米マサチューセッツ工科大のレイナー・ワイス名誉教授と、米カリフォルニア工科大のキップ・ソーン名誉教授、バリー・バリッシュ名誉教授に2017年のノーベル物理学賞が贈られる。

しかし、「生きていたら3人目はこの人だったはず」と言われているのは今年3月に85歳で亡くなったロナルド・ドレーバー氏だ。70年代、今回の受賞者のワイス氏、ソーン氏とは別に、英国で重力波検出装置を開発していたが、後にソーン氏から米国に招かれ、ワイス氏も合流、3人をリーダーに84年に始まったのが同プロジェクトだ。ドレーバー氏は装置の感度を上げる工夫に天才的能力を発揮し、「直感に優れ、彼の貢献なくして今日の重力波検出はなかった」とソーン氏は語る。一時L I G Oに参加した東大宇宙線研究所の宮川治さんが自宅を訪ねた時には、どの部屋も大量の本で埋まっており、「彼の多彩なアイデアはこんな環境から生まれていたのかと思った」という。

晩年は認知症を患い故郷スコットランドで暮らしたドレーバー氏だが、一昨年9月の重力波初検出を心から喜んだ。彼の甥は英メディアにこう語っている。「ノーベル賞を逃したからといって彼は慌てたりしません。目標に集中してきた科学者として、存命中に重力波が発見されたことこそが最高の報酬でしたから。」 イエスの弟子の中で最も働いたパウロも言う。

**「では、私にどんな報いがあるのでしょうか。それは、福音を宣べ伝えるときに報酬を求めないで与え、福音の働きによって持つ自分の権利を十分に用いないことなのです。」**

**第一コリント人への手紙9章18節**

どれだけ得ることが出来るかではなく、どれだけ与えることが出来るか。それは正に愛の力であり、時には大きな山をも動かす。イエスの福音は、そのために働く者にまずイエスの愛の波動が伝わり、それが世界へ及んで行く。

2017-11-18

